

スタンフォード大学研修に参加して

東北大学病院 細貝 良行

本研修会に参加するにあたり、多少の緊張と共にそれ以上に多大な期待を持ち参加させていただきました。スタンフォード大学という、研究においては世界でもトップクラスの大学にて研修できること、またその中の第一線で活躍されている、論文の著者としてしか知り得なかった著名な先生方の講義が受けられること、今現在、自分が行っているMRIやPETを使用した研究に対する研究意義の確認等、過剰なまでの期待を持ち参加することになりました。結果として過剰な期待にもかかわらず、それ以上に多くの情報が得られたことは、今後研究活動を行っていく中での大きな励みとなり、日常業務を行っていく上での後ろ盾になるものと考えています。

全くの偶然ではありますが、この研修会に参加する直前に当院の放射線部勉強会にて Radiology のアルツハイマー病に関するレビューを紹介しコメントしたのですが、そのときに使用したスライドが Moselay 先生の講義に使用されていたことに本当に驚きました。そのレビューでは近い将来に可能になりそうな Molecular Imaging(MI:分子イメージング)についての、理想像等が記述してありましたが、その理想像がスタンフォード大学では現実に行われているようです。MI は日本だけではなく米国でも Radiologist の最大の関心事であるようで、特に PET を使用した様々なレセプターにおけるイメージングは疾患の診断だけではなく、治療においても大きな役割を担うものとして期待されていて、現状では MRI よりも PET の方が MI では若干有意であるようです。

現在、自分の研究している分野が高次機能障害であり、まさに脳内の様々な機能や形態を MRI や PET を使用して得られた画像を解析し、疾患との関連を研究している最中であり、今回の研修では本当に多数の成果が得られたものと考えております。この結果は今後の研究活動の幅を広げ、後輩への指導等に対し必ず生かせるものと考えております。

印象に残ったものはきりがないのですが、特に 3T の MRI を使用した 512 マトリックスの Diffusion の画像です。今回の研修の実現に多大に貢献してくださった Moselay 先生の研究の中心である Diffusion に関する最新のデータや画像が実際に確認でき、大変な衝撃を受けました。本院にも近々 3T の MRI が導入される予定であり、同等の画像が得られるものと期待しております。

本研修に参加された様々なモダリティを担当している方々と、様々な話をすすることができました。仕事の話、学術的な話等、通常の学会等では得られない沢山の情報が得られ、その方々と繋がりを得ることができました。このことも今後の自分にとって大切な財産になるものと考えております。



中身の写真を付けました。資料には勉強する内容が、付属のお菓子には米国らしいユーモアが隠れていて今回の研修そのものを表しているような気がします。

最後になりましたが今回の研修を実現するにあたり、大変なご尽力を尽くしてくださった土井先生をはじめ、ご同行いただいたスタッフの方々、日本語でも非常に解釈が難しいのに、すばらしい通訳をしていただいた通訳さん、そして現地でご教授下さった先生方、スタッフ等、すべての方々に心から感謝の意を述べさせていただきます。本当に楽しいそして実りのある研修をありがとうございました。